

白神ブナ、キハダから乳酸菌

白神山地のブナ、キハダの木から見つかり、今後活用が期待される乳酸菌の神髄は「植物由来」という点。本来、ヒトや動物の体内に多い乳酸菌は、漬物など植物質のものにも生息しているが、自然界の植物そのものから見つかるのは極めてまれで、弘前大学によると、国内では初めてのことに。発見した弘大の殿内暁夫教授は「乳酸菌がなぜ白神にいて、そこで何をしていたのかはとても興味深い」と語る。

【本記1面】

弘大と共同研究を進める弘前市の「ラビプレ」は、宗教上の理由で食肉の種類にこだわる必要がある人や、肉や魚、乳製品など動物由来の食品を口にしない

「植物由来」に市場需要

い完全菜食主義者「ビーガン」の人々に向けた市場需要にも注目。昨年12月には、動物由来のものが一切含まれていないことなどを示す、日本ベジタリアン協会の「ヴィーガン認証」を受けた。イスラム教で禁忌とされる豚肉やアルコールを含まないことを示す「ハラール認証」の取得も、今後目指すという。

同社の三浦和英社長は「自然植物由来は宗教的な信頼も得やすく、イスラム圏の市場などで大きなアドバンテージとなる。

既に国内外の食品メーカーから引き合いがある。世界中で人々の健康に貢献できる素材だと確信している」と力を込めた。

(高松拓輝)